

生 活

1 これからの生活科教育について

- 人や社会、自然とかかわる活動を充実し、自分自身についての理解などを深めるよう改善を図る。
- 気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視する。また、科学的な見方・考え方の基礎を養う観点から、自然の不思議さや面白さを実感する学習活動を取り入れる。
- 自然の素晴らしさや生命の尊さを実感する学習活動及び安全教育を充実する。また、小学校における教科学習への円滑な接続のための指導を一層充実するとともに、幼児教育との連携を図り、異年齢での教育活動を一層推進する。

2 各学校において取組が求められること

小学校

- 学習指導については、次の点を意識した教育実践を進める。

(1) 体験活動と表現活動で気付きの質を高める。

体験活動で行ったこと、感じたこと、考えたことなどは時間とともに失われていくことが多い。また、体験活動が印象深いために、その他の出来事や様子を見逃してしまうことも多い。体験活動とともに表現活動を適切に位置付け、気付きの質を高めることを意識して実践する。

(2) 伝え合い交流する活動を実践する。

内容(8)「生活や出来事の交流」は、児童のコミュニケーション能力の育成を意識するとともに、言語活動を効果的に位置付け、児童が他者と繰り返し交流することができるように活動を構成する。

(3) 作成したスタートカリキュラムを実施し、改善を図る。

カリキュラムの実施後、児童が学校生活に適応していくために適切であったか、児童の目線に立って検討し、改善を図る。

(4) 安全教育や生命に関する教育を充実させる。

安全教育(内容(1)(3)(4))や生命に関する教育(内容(7))について見直しを図った指導計画が適切であったか検討し、改善を図る。また、動植物の飼育・栽培活動を、適切に行うことのできる環境が整備されているか検討し、改善を図る。

3 生活科における言語活動の充実

- ・ 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。〔→各学年の目標(4)〕
- ・ 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。→〔内容(8)「生活や出来事の交流」〕
- ・ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を工夫する。→〔内容の取扱い(2)〕

小学校 生活科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 飼育活動を通して気付いたことをどのように表現するか考え、多様な表現方法を使って表現することができる。

思考力、表現力の育成

- 学年 第2学年
- 単元名 いきものなかよし〈内容(7)(8)〉

小単元名(時数)	《前時までの活動内容》
第1次 生きものたんけんに行こう(2)	《前時までの活動内容》継続して飼育してきた生き物について、第3次でこれまでのかかわりを振り返り、学級で気づきを交流した。これらの気づきを1年生にも教えてあげたいという児童の願いから、生き物ごとにコーナーを設けた生き物ランドを空き教室に作り、1年生を招待することになった。児童は、生き物の特徴を1年生に説明するために、絵、新聞、紙芝居、模型など多様な方法で表現することにした。
第2次 生きものをかいたいな(3)	
第3次 生きもののみみつを見つけたよ(4+常時活動)	
第4次 ひみつを伝えてあげたいな(6)※本時2・3/6	
第5次 ありがとう、楽しかったよ(2)	

- 本時の目標 飼育している生き物について最も伝えたいことを選び、どのように伝えればよいか考え、1年生に分かりやすい伝え方になるように工夫することができる。
- 学習の流れ (11・12時間目/全17時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 めあてを確認する。 かっている生きもののみみつが1年生につたわるようにくふうしよう。		
2 生き物の特徴が1年生に伝わるような説明の仕方を考え、発表の準備をする。 〔工夫例〕 ・ザリガニのはさみの模型を厚紙で作し、動きやはたらきを説明する。 ・ダンゴムシの脱皮の様子を紙芝居で伝える。 ・カブトムシの成長の過程を新聞で伝える。 ・バッタジャンプ大会の様子や結果を、絵と身体表現で伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法の工夫について問いかけ、聞き手が1年生であることを意識させるとともに、最も伝えたいことを明らかにさせる。 ・絵や模型、動作など多様な方法を使って表現させる。 ・制作を通して観察が深まるよう、新たな気づきを引き出す言葉かけを行う。 ・どのように説明するか問いかけ、言語以外の表現方法で表したことを言語に置き換えさせる。 ・曖昧な表現については問い直し、言葉を付け足させたり、言い直させたりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育している生き物について最も伝えたいことを選び、どのように伝えればよいか考え、1年生に分かりやすい伝え方になるように工夫している。 〔活動や体験についての思考・表現〕(発言、感想カード等)
3 発表者と参観者に分かれてリハーサルを行う。 ○ 1グループごと発表させ、それ以外のグループの児童に参観させる。 ○ 改善点、よかった点など参観者の気づきを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・参観者には、発表者が伝えようとしている内容が分かったか、1年生にとって分かる説明になっていたか、という視点で参観させる。 ・第1学年担任にリハーサルを参観してもらい、最後にコメントしてもらう。 	
4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルの感想や気づきを交流し、次時の活動(準備の仕上げ)につなげる。 	

言語活動の充実

指導のポイント

児童の気づきを表出させる言葉かけや働きかけをする

- 児童は、活動や体験を通して多くのことに気づきますが、その中には無自覚なものや曖昧なものがあります。教師は、**言葉かけや働きかけを行い、児童が感じ取った事柄を言語などを用いて表出させ、価値付け**しましょう。

このことにより、児童は自分の気づきを自覚することができます。また、生き物の観察でどのようなことに気付けばよいのかということや、気付いたことをどのように表現すればよいのかということが分かり、表現する力が身に付きます。

※ 飼育活動では、常時活動における世話の様子についても教師が把握し、言葉かけや働きかけをすることが重要です。

児童：僕のザリガニ、すごい。
教師：どんなところがすごいのか。
児童：今日は水草を食べている。
教師：今まで水草は食べなかったの。
児童：いつもは煮干しを食べていた。
水草も食べるんだね。人間が肉も野菜も食べるみたいだ。
教師：そうだね。おもしろいことを見つけたね。みんなに教えてあげようよ。びっくりするよ。

「すごい」の内容を言語化させる言葉かけ

価値付け



多様な方法を使って表現させることで、気づきを言語化させる

- 児童が伝えたいことを伝えるときには、言語による方法の他に様々な方法が考えられます。絵や動作などの方法で表現しようとする中で、改めて対象とかかわって観察することになり、気づきの質が高まります。その後、どのように説明するのか教師が問いかけることによって、児童は**絵や動作などで表現していることを言語で表現し直したり、十分に表現できなかった部分に言葉を補ったりすること**になり、表現する力が高まります。

観察記録などから一番伝えたいことを選び、そのことを1年生に分かりやすく伝えるために表現方法を工夫させる。その方法を用いてどのように説明するか考えさせ、発表させる。

【言葉かけの例】

児童：ザリガニの餌の食べ方を教えてあげたい。
教師：どうやって説明したら1年生に分かるかな。
児童：厚紙ではさみを作って、ほくがやってみせる。
教師：いいね。
(中略)
教師：はさみができたね。どうやって説明するのか、やってみて。
児童：(模型を動かしながら) 餌を挟んで口に入れます。

教師：どんな感じで挟むの。
児童：……ちょっと見てくる。(改めて観察)
児童：逃がさないぞって感じて、ガシッと挟んでる。
教師：今の説明、よく分かるよ。
児童：(模型を動かしながら) 逃がさないぞっていう感じで、ガシッと餌を挟んで、口に持って行きます。
教師：1年生にも分かりやすい説明だね。

読み原稿を書かせ、覚えたことを発表させる。

改善



新学習指導要領では 内容(8)「生活や出来事の交流」を新設

- 今回の改訂で、言葉などを中心としたコミュニケーション活動を通して、体験したことを他者と情報交流する**内容(8)「生活や出来事の交流」が新設**されました。この内容では、**かかわることの楽しさが実感として分かり、身の回りの多様な人々と進んで交流できる**ようにすることを目指しています。
- 本事例では、単元に1年生との交流活動を設定し、「1年生に分かるように伝えたい」という相手意識をもって表現を工夫する活動を取り上げています。伝え合う活動を充実させるためには、**伝えたい内容や伝えたいという思いを教師が引き出す**ことが大切です。また、**児童に多様な方法で表現させる**とともに、その表現の中に含まれる児童の気づきを**言葉かけによって言語化**させましょう。